

JAPANESE
HEART
FAILURE
SOCIETY

JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

News Letter

Vol. 7, No. 2, 2003

発行：2003年7月1日
日本心不全学会
Japanese Heart Failure Society
<http://www.jhfs.gr.jp/>

CONTENTS

1
5
8
10

第7回日本心不全学会総会・学術集会のお知らせ

●堀 正二(大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)

〈心不全治療のトピックス〉慢性心不全に対する β 遮断薬治療の最新情報

●吉川 勉(慶應義塾大学医学部内科学呼吸循環)

〈海外研究室紹介〉Douglas Mann Lab.

●坂田泰史(Baylor College of Medicine)

日本心不全学会 News Letter 編集事務局・日本心不全学会事務局よりお知らせ

第7回日本心不全学会学術集会

*ご参加により、日本循環器学会認定更新研修単位(1単位)を取得していただけます(自己申告式)。

会期 2003年10月23日(木)～25日(土)
 会場 グランキューブ大阪[大阪国際会議場]10F
 会長 堀 正二 (大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)
 事務局 大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学内(担当: 大津 欣也)
 〒565-0871 吹田市山田丘2-2 TEL 06-6879-3640/FAX 06-6879-3639
 E-mail 7jhfs2003@medone.med.osaka-u.ac.jp/URL http://square.umin.ac.jp/JHFS2003/

日本心不全学会組織

- 理事長 北島 顕
- 理事 磯部光章 今泉 勉 小川 聡 笠貫 宏 篠山重威 白土邦男 竹越 襄
 竹下 彰 外山淳治 土居義典 永井良三 藤原久義 堀 正二 松崎益徳
 松田 暉 矢崎義雄 山口 巖 横山光宏 吉川純一
- 監事 大江 透 友池仁暢
- 評議員 相澤義房 麻野井英次 東 純一 安倍十三夫 飯島俊彦 飯沼宏之 井内和幸
 池口 滋 池田宇一 石井當男 石川欽司 石川利之 和泉 徹
 磯山正玄 伊藤隆之 伊藤隆之 井上 博 井上通敏 今泉 勉 岩坂壽二
 岩崎忠昭 上嶋健治 上嶋健治 上田清悟 上田博久 遠藤政夫 大内尉義
 大江 透 大川真一郎 大木 崇 大草知子 大塚邦明 岡本 洋 小笠原定雅
 小川研一 小川 聡 小川久雄 奥村 謙 小沢友紀雄 落合久夫 小野幸彦
 尾内善四郎 加賀谷豊 垣花昌明 加藤法喜 川口秀明 加藤法喜 川嶋成乃亮
 金子 昇 加納達二 上松瀬勝男 茅野真男 川口保清 北島 顕 倉林正彦
 川名正敏 河村慧四郎 神原啓文 木全心一 小岩喜郎 小柳左門 斎藤宗靖
 木之下正彦 木原康樹 元田 憲 小西 孝 斎藤能彦 佐藤友英
 栗田 明 琴浦 肇 齋藤宗靖 佐藤友英 杉下靖郎 高橋正明
 竹村元三 筒井裕之 中川雅夫 永田正毅 野々木宏 濱田希臣
 廣瀬邦彦 細田泰之 松井 忍 松田 暉 三浦哲嗣
 湊口信也 本原征一郎 安田慶秀 山科 章 吉田 清

●特別プログラム(プレナリーセッションは英語発表、他は日本語発表も可)

開会講演1題 特別講演2題 プレナリーセッション3題 シンポジウム1題 パネルディスカッション4題 教育講演6題 TOPICS1題 YIA審査講演 モーニングレクチャー4題 ランチョンセミナー6題 サテライトセミナー4題	10月24日(金)		10月25日(土)	
	モーニングレクチャー1 ... 8:00-8:45	モーニングレクチャー2 ... 8:00-8:45	モーニングレクチャー3 ... 8:00-8:45	モーニングレクチャー4 ... 8:00-8:45
	プレナリーセッション1 .. 9:00-11:10 特別講演1 (Chien, KR) .. 11:10-12:00 総会 12:00-12:30 一般演題(口頭) 9:00-11:00		プレナリーセッション2 .. 9:00-11:00 特別講演2 (Konstam, MA) .. 11:00-11:50 教育講演2-5 9:00-11:00	
	ランチョンセミナー1 12:30-13:30	ランチョンセミナー2 12:30-13:30	ランチョンセミナー3 12:00-13:00	ランチョンセミナー4 12:00-13:00
		シンポジウム 14:30-16:30 教育講演1 16:30-17:00 YIA審査講演 17:00-18:00 パネルディスカッション3 14:30-16:30 TOPICS 16:30-18:00 一般演題(ポスター) .. 13:30-14:30	一般演題(ポスター) .. 13:00-14:00 プレナリーセッション3 .. 14:00-16:00 パネルディスカッション4 14:00-15:30 教育講演6 15:30-16:00 閉会(YIA授与式) .. 16:00-16:15	
	サテライトセミナー1 18:30-20:30	サテライトセミナー2 . 18:15-20:15	サテライトセミナー3 . 18:15-20:15	サテライトセミナー4 16:30-18:30

●外国人講演者

- Chien, KR Univ. of California at San Diego, USA
- Dahlöf, B Scandinavian Clinical Research Inst., Sweden
- Dib, N Arizona Heart Institute and Hospital, USA
- Diez, J Univ. of Navarra, Spain
- Howlett, J Dalhousie Univ., Canada
- Konstam, MA Tufts-New England Medical Ctr./Tufts Univ. Sch. of Medicine, USA
- Little, WC Wake Forest Univ. Sch. of Medicine, USA
- Mann, DL Veterans Administration Medical Ctr./Methodist Hosp./Baylor Coll. of Medicine, USA
- Ponikowski, P Clinical Military Hospital, Poland
- Sabbah, HK Henry Ford Heart and Vascular Inst., USA
- Swedberg, K Sahlgrenska Univ. Hosp./Ostra, Sweden
- Remme, WJ Sticars Cardiovascular Research Foundation, The Netherlands

賛助会員一覧(平成15年6月30日現在, 50音順)

あ アストラセネガ株式会社 エーザイ株式会社 大塚製薬株式会社	第一サントリーファーマ株式会社 第一製薬株式会社 財団法人 体質研究会 大正富山医薬品株式会社	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 日本メジフェイジックス株式会社	ファルマシア・アップジョン株式会社 フクダ電子株式会社 藤沢薬品株式会社
さ 塩野義製薬株式会社	大日本製薬株式会社 帝人株式会社	は バイエル薬品株式会社 萬有製薬株式会社 ファイザー製薬株式会社	ま 丸石製薬株式会社 三菱ウェルファーマ株式会社
た 田辺製薬株式会社	な 日本化薬株式会社		

(敬称略)

ほか

●特別プログラム(予定)

■開会講演

Remme, WJ Sticares Cardiovascular Research Foundation, The Netherlands

■特別講演

- 1. Chien, KR Univ. of California at San Diego, USA
2. Konstam, MA Tufts-New England Medical Ctr./Tufts Univ. Sch. of Medicine, USA

■プレナリーセッション

1. Diastolic Heart Failure: Diagnosis, Epidemiology and Treatment

- Keynote Little, WC Wake Forest University School of Medicine, USA
- Keynote Diez, J Univ. of Navarra, Spain
- Masuyama, S Osaka Univ., Japan
- Yano, M Yamaguchi Univ., Japan
- Kalhoz, M Saint Vincents Catholic Medical Ctrs., Manhattan, USA

2. Experimental Animal Models of Heart Failure: From Gene to Function (120 mins.)

- Keynote Sabbah, HK Henry Ford Heart and Vascular Inst., USA
- Keynote Mann, DL Baylor Coll. of Medicine, USA
- Toyo-oka, T Univ. of Tokyo, Japan
- Otsu, K Osaka Univ., Japan
- Matsumori, A Kyoto Univ., Japan

3. Cellular and Tissue Engineering Strategies for the Treatment of Heart Failure (120 mins.)

- Keynote Dib, N Arizona Heart Inst. and Hosp., USA
- Komuro, I Chiba Univ., Japan
- Matsubara, H Kyoto Prefectural Univ. of Medicine, Japan
- Sawa, Y Osaka Univ., Japan
- Fukuda, K Keio Univ., Japan
- Fujiwara, H Gifu Univ., Japan

■シンポジウム

Signaling Pathways and Molecular Mechanisms of Heart Failure

- Minamino, T Osaka Univ., Japan
- Hasegawa, K Kyoto Univ., Japan
- Ikeda, Y Yamaguchi Univ., Japan
一般演題より3~4題

■パネルディスカッション

1. Biventricular Pacing for Heart Failure

2. Current Issues in Heart Transplantation

3. Epidemiology and Clinical Trials in Heart Failure

- Okamoto, H Hokkaido Univ., Japan
- Tsutsui, H Kyushu Univ., Japan
一般演題より4~5題

4. Recent Advances in Surgical Treatment of Heart Failure

■TOPICS

New Drugs, New Trials

■教育講演

- 1. Howlett, J Dalhousie Univ., Canada
2. Ponikowski, P Clinical Military Hosp., Poland
3. Swedberg, K Sahlgrenska Univ./Ostra, The Netherlands
4. Dahlöf, B Scandinavian Clinical Research Inst., Sweden

■モーニングレクチャー/ランチョンセミナー/サテライトセミナー

■一般演題(口述発表(日本語)/ポスター発表)

第7回日本心不全学会学術集会
宿泊のご案内

このたび平成15年10月23日(木)~25日(土)の3日間、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)におきまして上記学術集会が開催されます。参加されます皆様の宿泊の手配を株式会社ジェイティービー西日本イベント・コンベンション営業部で取り扱わせていただくこととなりました。つきましては、全国各地より学術集会に参加される皆様方に特別料金でご宿泊をご案内申し上げます。何卒ご利用賜りますようお願い申し上げます。

1. 宿泊のご案内

宿泊期間:平成15年10月23日(木)~10月25日(土)3泊(1泊朝食付 税金・サービス料込のお一人様あたりの料金です)

Table with columns: Hotel Name, Rate (Single/Twin), Nearest Station, Time to Venue, and Map No. Includes entries for Rieroyal Hotel, Rierand Hotel, Rierano Hotel, and Hotel NCB.

*1: デラックス(ツインルームのお一人様利用) *2: 税込み

2. 申込方法

申込書にご記入の上、コンビニエンスストア払込もしくはクレジットカード払いにてお申し込み下さい。前受金(お一人様につき5,000円)および通信費(1室につき840円)の入金確認後、宿泊予約確認書をお送りいたします。なお、お申込はインターネットでも受け付けております。学会ホームページからアクセスして下さい。

*インターネットでの受付は、通信費が420円とお安くなっております。

コンビニエンスストア 申込の受け付け後10日以内に振込票を送付いたします。別途払込手数料500円税別が必要になります。(取り扱い店舗:スリーエフ・セブンイレブン・ミニストップ・ローソン・ファミリーマート・サンクス・am/pm・セーブオン・サークルK・ポプラの全店)

クレジットカード 申込書にカードNo.をご記入の上、FAXして下さい。

*開催2週間前になりましても回答がない場合は通信エラーなどが考えられますので、お手数ですが当部までご連絡下さい。

*前受金を差し引いた宿泊費差額分につきましては、ホテルにてお支払い下さい。

*ご希望のホテルが満室の場合は同等クラスの他のホテルをご案内しますので、ご了承下さい。

3. 交通について

ご希望に応じてご手配いたしますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

★ご宿泊および交通に関するお問い合わせは、下記にて承ります。

申込書送付先 〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6 堺筋本町センタービル8F
JTB西日本イベント・コンベンション営業部
『第7回日本心不全学会学術集会』係 (担当:水野)
TEL: 06-6260-5076
FAX: 06-6260-5090 (平日9:00~17:00/土日祝・休)
Email: itdw_ecl1@kns.jtb.co.jp

4. 申込締切日 平成15年10月9日(木)17:00

5. 取消料

お取り消しおよびご変更の際は早めにお早めにFAXまたは郵送にてご連絡下さい。ご予約を取り消された場合、下記の取消料および通信費を差し引いた残額を後日ご返金いたします。

Table with columns: Cancellation Date, Cancellation Fee, and Remarks. Shows fees of 1,000 yen for 8 days prior and 50% of room rate for the day prior.

るリアノジン受容体の機能異常が次第に明らかになってきた。リアノジン受容体には1対4の割合で調節蛋白であるFK506結合蛋白が結合しているが、不全心筋ではその結合が解離することが明らかとなった。このことはL型カルシウム・チャンネルからのカルシウム・イオンの流入に反応して、複数のリアノジン受容体から一斉にカルシウム・イオンが放出されるという“coupled gating”機構が失われ、筋小胞体から無秩序にカルシウム・イオンが漏出することに繋がる。本現象は細胞内カルシウム過負荷による心筋細胞障害のみならず、撃発活動による致死的心室性不整脈の発生素地となる。リアノジン受容体とFK506結合蛋白の解離にはプロテイン・キナーゼAが関与する。β遮断薬はプロテイン・キナーゼAの活性化を抑制することにより、リアノジン受容体とFK506結合蛋白のストキオメトリーを維持し、カルシウム放出機構を制御することが新しい作用機序として浮上してきた³⁾。実際に心移植前にβ遮断薬で治療された症例から採取された心筋細胞のカルシウム・トランジェントは収縮期のピーク値が維持されている。

④アポトーシスは生体にとって合目的反応と考えられてきたが必ずしもそうではなく、さまざまな病態の引き金となることも明らかになってきた。アポトーシスは心肥大から心不全発症のキー・ステップであるとの見方もある。βアドレナリン受容体刺激、とくにβ1受容体を介してアポトーシスが誘導されることが成熟ラット心筋細胞を用いた検討で明らかにされている。この現象は、カタラーゼやドミナント・ネガティブc-Jun NH2-terminal kinase (JNK) をトランスフェクションすることによって抑制される⁴⁾ことから、活性酸素種とJNKによるミトコンドリアのアポトーシス・シグナルの活性化が関与するものと思われる。カルベジロールはtumor necrosis factor (TNF) -αによって誘導された臍帯静脈内皮細胞のアポトーシスを抑制するが、β遮断作用のない誘導体によっても同様に抑制されることから、抗酸化作用がアポトーシスの抑制に主に関与すると考えられた。

⑤Maiselはメトプロロール治療によって心不全患者によく見られる遅延性過敏反応のアネルギーが改善することを報告し、β遮断薬治療が免疫系を修飾する可能性を示した。ラット心筋梗塞モデルにおいてメトプロロールは非梗塞部心筋におけるTNF-αやinterleukin-1βの発現を抑制する。われわれは拡張型心筋症患者に見られるβアドレナリン受容体に対する自己抗体はアゴニスト様作用を有し、その作用はビソプロロールによって抑制されることを明らかにした⁵⁾。本自己抗体の存在は心室頻拍と関連し、突然死の予測因子となった。本自己抗体を有する拡張型心筋症患者において、β遮断薬の使用は高リス

ク心室頻拍の負の予測因子となった⁶⁾。このように、β遮断薬の作用機序の一部にサイトカイン、細胞性・液性免疫が介在する可能性が考えられる。

III. β遮断薬は心不全治療の第一選択となりうるか？

慢性心不全治療の第一選択はアンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬であり、β遮断薬はあくまでも標準的治療がすでに行われ、なおかつ自覚症状を有する例に限定されてきた。大規模臨床試験においてβ遮断薬の生命予後改善効果はACE阻害薬の約2倍であることから、必ずしもACE阻害薬の後に投与する必然性はないように思える。CARMEN (Carvedilol and ACE-inhibitor Remodelling Mild Heart Failure Evaluation Trial) 試験はこのような疑問に答えるべく、左室駆出率40%未満の軽症心不全患者を対象にACE阻害薬単独治療群、β遮断薬単独治療群、併用群に無作為割付して、左室リモデリングに及ぼす影響を検討した。併用群ではβ遮断薬カルベジロールを最初に増量した後にACE阻害薬エナラプリルを投与した。左室収縮末期容積はエナラプリル投与群では変化はなかったが、カルベジロール投与群と併用群で低下した。収縮末期径の減少効果は併用群で顕著であった。今後はβ遮断薬が最初に開始されるケースも増えてくるのではないかと思われる。

IV. カルベジロールかメトプロロールか？

1996年にカルベジロールが軽症から中等症の慢性心不全患者に有効であることが報告されてから、カルベジロールの有効性が強調されている。一方、メトプロロールやビソプロロールなどのβ1選択性遮断薬についてもその後の大規模臨床試験によって生命予後改善効果は明らかである。β遮断薬の導入しやすさの1つの指標として、“inverse agonism”作用が挙げられる。この薬理学的特性は、内因性アゴニストとの競合以外に直接受容体活性を低下させるものである。本薬理学的作用が顕著なβ遮断薬の場合、心不全増悪を招きやすいことになる。この作用はカルベジロールにおいては比較的少ないことが指摘されている。実際、MERIT-HF (Metoprolol CR/XL Randomised Intervention Trial in Congestive Heart Failure) 試験に登録された中等症から重症心不全例では、β遮断薬導入期において試験からの脱落はプラセボ投与群よりも実薬投与群に多かった。これに対して、COPERNICUS試験ではさらに重症例を対象とした試験であるにもかかわらず、β遮断薬導入期の脱落率に実薬群とプラセボ群の間で差はなかった。左室駆出率改善効果はカルベジロールの方が勝るが、運動耐容能はメトプロロールにおいてのみ改善したとする報告がある。現在、メトプロロールとカルベジロールの生命予後をエンドポイントとした大規模試験が進行中である。

V. β遮断薬治療中に心不全増悪を来したらどうするか？ 文献

β遮断薬が慢性心不全治療として普及するに伴い、β遮断薬投与下の心不全増悪例が入院してくるケースが増えることが予測される。このような場合、強心薬としてのカテコラミンの有効性があまり期待できない。実際に、急性心不全例を対象として行われたドブタミンとカルシウム感受性増強薬レボシメンダンの比較試験では、β遮断薬がすでに投与されている場合、肺動脈楔入圧と心拍出量の改善はレボシメンダンは認められたのに対して、ドブタミンでは減弱していた。Metraら⁶⁾は慢性心不全患者をメトプロロール投与群とカルベジロール投与群に無作為割付し、β遮断薬投与前後でドブタミンとフォスフォジエステラーゼ阻害薬エノキシモンに対する循環動態の反応を観察した。メトプロロール投与下ではある程度ドブタミンに対する反応は維持されたが、カルベジロール投与下ではドブタミンに対して心拍出量はほとんど増加せず、肺動脈圧は却って上昇した。エノキシモンに対しては、いずれのβ遮断薬投与下にあっても反応は良好であった。

VI. おわりに

今や軽症から中等症の慢性心不全に対する治療法はほぼ確立された。しかし現状では、合併症や重症度のためにACE阻害薬もβ遮断薬も投与できない心不全例に遭遇することも稀ではない。とくに、β遮断薬は超重症例への導入開始は困難である。心移植医療の普及が遅々として進まないわが国においては、代替治療の開発が望まれる。

日本心不全学会会員の皆様へ

日本心不全学会ホームページが開設されました。アドレスは<http://www.jhfs.gr.jp/>です。ぜひご利用ください。また、ご要望などございましたら下記事務局へお寄せください。

日本心不全学会事務局
TEL: 03-5814-5801 FAX: 03-5814-5820
E-mail: infs@bcasj.or.jp

海外研究室紹介

Baylor College of Medicine
Mann lab

坂田 泰史
Yasushi Sakata



私がヒューストンにやってきてから、早いもので間もなく1年になります。今年に入りイラク戦争が始まり、なんとなく暗い幕開けでしたが、今のところアメリカ国内は大きなテロや事件もおきずに現在に至っています。

ヒューストンは近郊都市を含めた人口は約300万人で、ニューヨーク、ロスアンゼルス、シカゴに次ぐ全米第4の大都市です。ただし他の大都市と異なり、高層ビルはダウンタウンの一角に限られ、どこに行っても豊かな緑と広いスペースがあり、アメリカの大都市特有の狭苦しい感じはまったくありません。これは、広大なテキサスの一角にあることも影響しているのかもしれませんが、市内の移動は路線バス以外には公共交通機関はなく、広いヒューストンを移動するにはまず車は必需品です。もちろん、駐車スペースには事欠きません。冬は、大変あたたかくコートを着ることは1年に一、二度ですが、その分夏は非常に暑く、7月と8月は毎日40度近くまで上昇します。また、メキシコ湾が近くにあるために湿度も高く、エアコンなしではとても生きていけません。そんなヒューストンを代表しているのは、NASA Johnson Space CenterとTexas Medical Centerです。Texas Medical Centerは、MD Anderson Cancer Center, Methodist Hospital, St. Luke's Episcopal hospital, Texas Children's Hospital, Texas VA hospitalなどの病院群、Baylor College of Medicine, University of Texas Houstonなどの学術機関合わせて42の医療機関からなる、従業員5万人、1日外来患者10万人、学生数9万人の全米、そして世界最大のメディカルセンターです。今日も敷地内のあちこちで新しいビルを建てるための工事が行

われており、これからもどんどん増殖する勢いです。毎日どこかしらでセミナーやカンファレンスが無数に行われ、ラボ間の敷居が低いこの環境は大変刺激的です。私の所属するBaylor College of MedicineはNIHのグラントでは全米第5位で、メインキャンパスに足を踏み入れると、あの大動脈解離分類で有名なMichal E. DeBakey先生の大きな肖像画が出迎えてくれます。また、先日はその前を御年90歳になられようとしているDeBakey先生ご本人が、未だ現役で白衣を着て歩いておられました。

私は、Douglas L. Mann教授のもとで、サイトカインと心不全を主テーマとして研究を進めています。最近では日本の学会にもたびたび招待されており、ご存知の方も多いかと思いますが、Mann教授はこれまでサイトカインと心不全の関係について多くの業績をあげてこられました。現在、彼はBaylor College of Medicineの教授、Winters Center for Heart Failure ResearchのDirector, Gordon CainのChairを務める一方、臨床医として患者の診療にも携わっています。日々多忙を極めていますが、ジョーク好きで家族のためにイタリア料理を振る舞い、昔はロックバンドでドラムを叩いていたという人間味あふれる魅力的な方です。彼は、アメリカ人ながら「情に厚く」われわれ日本人にも親しみの持てるボスです。

現在、私の所属するbasic research labを構成しているのはassistant professorが3人、post-doctoral fellowが5人、residentが2人、大学院生1人、technician 6人、事務数名と大所帯です。また、Mann教授がdirectorをしているWinters Center for Heart Failure Researchはこのbasic research labとは

別に、clinical research labも併設しており、そこにも多くの研究者・CRCなどが働いています。プロジェクトは一貫してcytokine、とくにTNF- α の心不全における役割に関するものですが、3人のassistant professorの専門がそれぞれ心筋細胞のエネルギー代謝(MD)、敗血症やショック時の循環制御(MD)、NF-kBなどの転写因子(PhD)とまったく異なっているため、切り口も多種多様でさまざまなプロジェクトが進行しています。実験経過の報告は毎週月曜日の朝に行います。また、忙しい間をぬって、プロジェクトに関してマンツーマンで話し合う時間もとり、私の拙い英語にも辛抱強く付き合ってもらっています。Mann教授はよいデータが出れば、Hug(これは女性ですが)やHigh Fiveとともに喜んでくれ、よいデータが出なくても、必ずわれわれを励まし、前向きなsuggestionをしてくれます。Mann教授のすばらしい点は、そのバランス感覚にあると思います。その仮説はシンプルであるか、その論理は自然でスムーズか、についてジョークを飛ばしながらもいつも厳しいチェックが入ります。また彼は、その結果は心不全の病態にどのような意義があるか、将来的に臨床にどのように応用できるかについても常に考えており、それは、彼が主催するWinters Center for Heart Failure Researchのマーク(Winters Centerのホームページ: www.bcm.tmc.edu/winterscenter/)にも表されています。from bench to bedsideを志す研究者にとっては、最適のボスと言えるでしょう。

われわれのラボは、所属はBaylor College of Medicineですが、実際の研究室はMethodist hospitalの中にあり、Baylorのメインキャンパスにあるようないくつものラボが共同で使う大研究室ではなく、むしろ日本の研究室のように細かく部屋に分かれています。しかし、conference room, fellow's room, 各 professorの部屋からbench, hot (RI) room, in vivo/ex vivo room, animal facilityに至るまで身近にまとまっており、使い勝手は上々です。日本と違うところは、いわゆる実験助手のボス(technical administrative)が、薬品などの注文・管理を一括してやってくれているところです。彼女も陽気で、いつもジョークを飛ばし、大きな体を揺らしながらてきぱきと仕事をこなしています。また、共同研究も盛んで、遠方から隣のラボまで多くの研究室と行っています。私自身は、現在ラボが所有しているいく

つかのcytokineに関する遺伝子改変動物を用いて、in vivo, ex vivo studyを中心に研究を行っています。とくにex vivo studyに関しては、立ち上げから行ったため苦労しましたが、Mann教授の励ましもあり、ようやく軌道にのってさあこれからという段階です。1年はあっという間に過ぎてしまい、まさに“Time flies.”を実感しております。

ラボの国別構成は、半分がアメリカ人、中国人4人、インド人2人、ハンガリー人1人、オーストリア人1人、台湾

人1人、そして日本人が私と群馬大学から来られている関口賢一先生の2人と国際豊かです。教授の性格を反映しているのか、ラボの雰囲気は大変陽気で明るく、2、3カ月に一度は餃子(中国人がつくる)やFajita(メキシコ料理)のランチパーティーがあります。今度は関口先生と寿司職人をきどり、寿司パーティーをよろうと2人で構想を練っているところです。また、フェローとはバーベキューやボーリング大会、パーティーなども楽しんでいきます。アメリカ人は、一緒に過

ごしていると相手に対する気遣いを実際に声に出して表現することがうまく、またボランティア精神が豊かであることに気付かされ、日本人にも見習うべきと感じています。

暑いヒューストンですが、研究に余暇に充実した毎日を送っております。最後に、この留学の機会を与えてくださった大阪大学大学院病態情報内科学の堀正二教授、増山理助教授をはじめ、多くの教室の先生方やスタッフの皆様に深く感謝いたします。

学会カレンダー(2003年)

開催日	学会名	会長	所属	会場
7月16日~18日	第39回日本小児循環器学会	山口真弘	兵庫県立こども病院	神戸国際会議場(神戸市)
7月20日	第9回日本心臓リハビリテーション学会	濱本 紘	榊原記念病院循環器内科	砂防会館(東京都)
7月31日~8月2日	第3回日本心血管カテーテル治療学会	目黒泰一郎	仙台厚生病院心臓センター	仙台国際センター(仙台市)
9月8日, 9日	第20回日本心電学会	岸田 浩	日本医科大学第一内科	東京国際フォーラム(東京都)
9月8日~10日	第51回日本心臓病学会	小川 聡	慶應義塾大学呼吸循環器内科	東京国際フォーラム(東京都)
9月27日, 28日	第8回日本心臓血管麻酔学会	古家 仁	奈良県立医科大学麻酔科学教室	奈良県立新公会堂(奈良市)
9月27日, 28日	第35回日本動脈硬化学会	北 徹	京都大学臨床生体統御医学	国立京都国際会館(京都市)
10月27日~29日	第43回日本核医学会	久保敦司	慶應義塾大学放射線科	新宿京王プラザ(東京都)
10月30日~11月1日	第26回日本高血圧学会	江藤胤尚	宮崎医科大学第一内科	ワールドコンベンションセンターサミット(宮崎市)
11月2日	国際肺塞栓症シンポジウム in仙台	白土邦男	東北大学大学院循環器病態学	仙台国際センター(仙台市)
11月6日~8日	第43回日本脈管学会	居石克夫	九州大学病理病態学	アクロス福岡(福岡市)
11月19日~21日	第56回日本胸部外科学会	小林紘一	慶應義塾大学呼吸器外科	新宿京王プラザ(東京都)
11月21日, 22日	第7回日本心血管内分泌代謝学会	島本和明	札幌医科大学内科学第二	札幌プリンスホテル(札幌市)

News Letter 編集事務局より
お知らせ

2001年より、日本心不全学会 NewsLetter の発行に
関する業務は、学会の出版・編集委員会が企画し、(財)
日本学会事務センターにある学会事務局が発行業務を
担当することになりました。現在「心不全研究の最前
線」、「心不全治療のトピックス」、「海外研究室紹介」、
「学会カレンダー」を掲載しており、多くの先生に大変
好評をいただいております。原稿をいただいた先生方
には、あらためまして厚く御礼申し上げます。

今後とも、さらに内容の充実をめざしていきたいと
考えております。企画に関しまして、ご意見・ご提案
などございましたら、下記編集事務局までご連絡いた
だければ幸いです。会員の諸先生方のご協力を
何卒よろしくお願い申し上げます。

出版・編集委員会委員長
竹下 彰

日本心不全学会 News Letter 編集事務局担当
筒井裕之

日本心不全学会 NewsLetter 編集事務局の連絡先

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院医学系研究院 循環器内科学
日本心不全学会 News Letter 編集事務局
筒井裕之・深松洋子
TEL: 092-642-5360 FAX: 092-642-5374
E-mail: prehiro@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp

日本心不全学会入会のご案内

本学会は、心不全ならびにこれらに関連する分野の
研究発表の場を提供し、知識や情報の交換を行うこと
によって心不全に関する研究を推進し、わが国におけ
る医学の発展に寄与することを目的としております。
平成8年に設立、今年で7年が経過いたしました。

本会のさらなる充実に向け、会員の増強を行って
おります。ご入会を希望される方がおられましたら、是
非ご紹介くださいますようお願いいたします。

▶ 会員の特典

- 1. 日本心不全学会と米国心不全学会の共通の機関
誌「Journal of Cardiac Failure」が配布されます。
- 2. ニュースレターが年4回配布されます。

▶ 入会手続き

下記事務局宛にご連絡ください。折り返し「入会申
込書」をお送りいたします。または、巻末の入会申
込書にご記入いただき、FAXにて送信ください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
(財)日本学会事務センター内 日本心不全学会事務局
TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

▶ 年会費

正会員 10,000円

▶ 会費の送金方法について

入会申込書を返送していただいてから1カ月以内に
請求書を発行しますので、最寄りの郵便局または銀
行よりお振込みください。

日本心不全学会 News Letter Vol. 7, No. 2

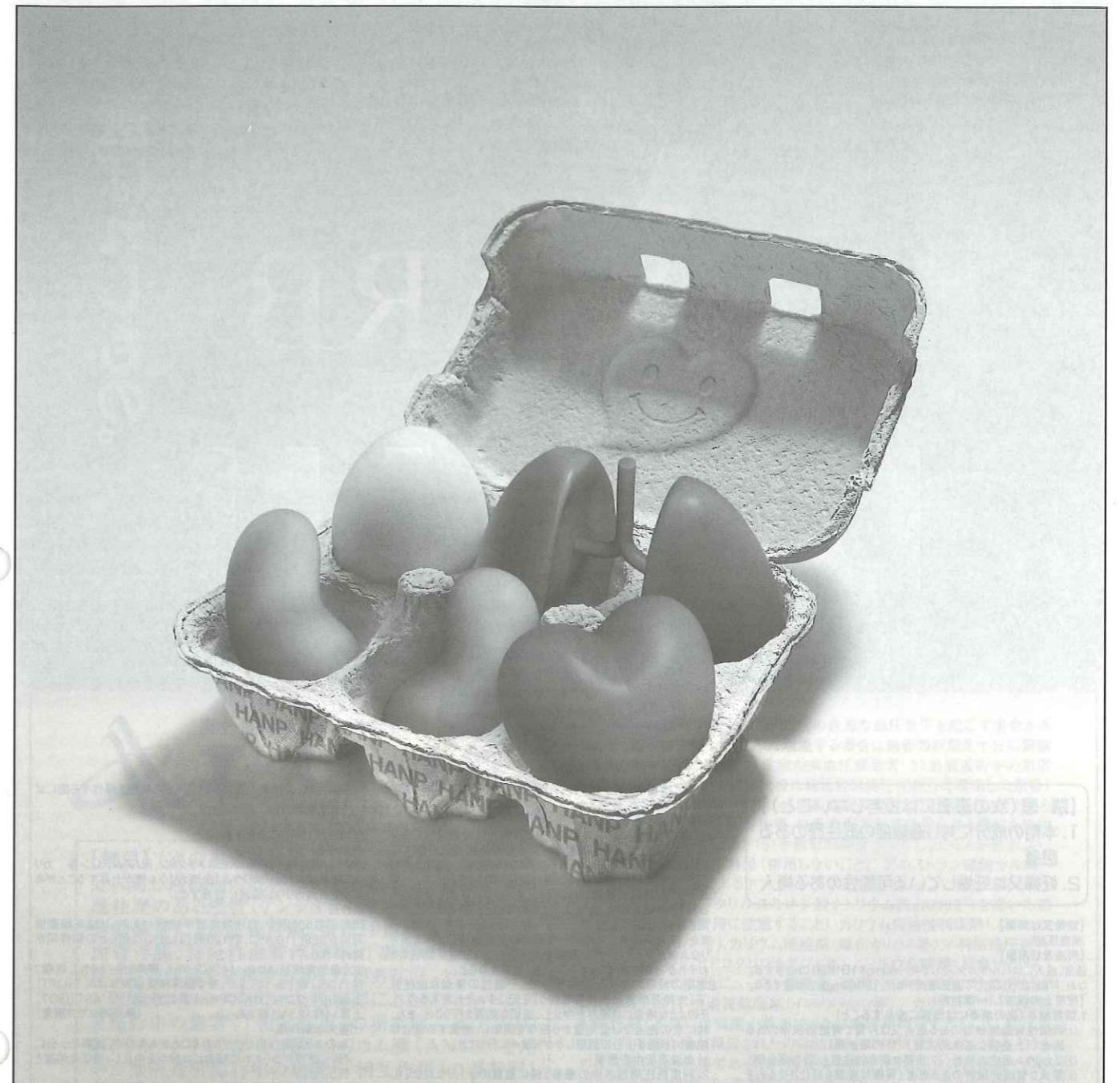
2003年7月1日発行

編集・発行 ● 日本心不全学会

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21
財団法人 日本学会事務センター内
TEL: 03-5814-5801 FAX: 03-5814-5820
http://www.jhfs.gr.jp/

製作 ● 財団法人 日本学会事務センター 学会共同編集室

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-17-9 本郷網ビル 2F



※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては、添付文書等をご参照ください。

薬価基準収載

α型ヒト心房性ナトリウム利尿ポリペプチド製剤

ハンプ® 注射用1000

一般名：カルペリチド（遺伝子組換え）
carperitide (genetical recombination)

劇薬 / 指定医薬品 / 要指示医薬品*

*注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

製造元 **第一サントリーファーマ株式会社**
東京都千代田区麹町五丁目7番地2

いのち、ふくらまそう。

発売元 **第一製薬株式会社**

資料請求先
東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
http://www.daiichipharm.co.jp/